

八雲開拓の礎を築いた 尾張徳川家と旧尾張藩士族 の移民

太平洋側の八雲地域の歴史を遡ると、松前藩から交易権を与えられた知行主とアイヌの人たちが交易を行う場として、16世紀末にはユウラップ場所とノダオイ場所が開設されていました。その後、和人が定住を始めるのは、1764（宝暦14）年頃から津軽と南部地方から落部に移り住んだ漁業経営者が最初と言われています。

18世紀後半、ロシアの南下政策に対応して東蝦夷地を直轄地とした幕府は、和人地と蝦夷地の境界に設置していた関門を、1801（寛政元）年に亀田から山越内に移し、山越内関門を設置しました。蝦夷地と和人地の境界は、日本海側は熊石に、太平洋側は山越内にありました。

本格的な開拓が始まるのは明治11年、旧尾張藩主徳川慶勝公は明治維新で禄を失った旧臣授産のため、北海道開拓に着目して遊楽部の土地の払い下げを願い出て、旧藩士とその家族82名を移住させました。のちに徳川農場と呼ばれる徳川家開墾試験場がここに誕生します。慶勝公は理想郷の建設を願って、この地を八雲と名付けました。明治14年には遊楽部と黒岩を八雲村とし、戸長役場が設置されます。徳川農場では西洋農法を積極的に導入して耕作し、牛馬飼育を行ったほか植林事業やサケの増養殖などにも取り組みました。

大正12年になると、尾張徳川家19代当主の徳川義親公は、スイスから

持ち帰った民芸品の木彫り熊を見本にして、農民の冬期間の副業として木彫り熊づくりを推奨しました。北海道土産として知られる木彫り熊は八雲が発祥の地です。徳川農場は第二次大戦後の農地解放によって閉場しますが、創設以来70年間にわたり八雲の産業や教育、文化に及ぼした影響は大きなものがあります。

八雲村は明治35年には北海道二級町村制施行により山越内村と併合、大正8年には待望の町制施行となり、八雲町が誕生します。その後、昭和32年に落部村と合併、平成17年には熊石町と合併して今日に至っています。



●山越内関門（関所）跡

会所・勤番所・関門などがあり、会所業務を行うとともに蝦夷地への通行人の往来切手改めを兼務した。この近くのJR山越駅は関所をイメージした外観で、国道5号沿いの休憩スポット。



●八雲開拓の祖・徳川慶勝公と開拓移住者上陸の地碑



●家形石製品

平成10年に噴火湾沿いの栄浜1遺跡から出土した縄文時代中期の石製品。縄文時代の家の形を模した石加工品としては国内唯一の出土品。



●山越内会所兼関門（関所）絵図



●徳川義親公像



●農民美術研究会（熊彫講習会）



●北海道木彫り熊第1号

写真内右はモデルになったスイスの木彫り熊（八雲産業㈱所有）。



●「木彫り熊北海道発祥の地」記念碑



●八雲町郷土資料館

国の重要文化財に指定された縄文時代の骨角器のほか、尾張徳川家による遊楽部開拓、江戸時代から採掘されてきた遊楽部鉱山の盛衰、明治末から大正初期に「八雲片栗粉」のブランドで国内相場を動かすほど隆盛を極めた馬鈴薯デンプン製造、木彫り熊の北海道発祥の地としての歴史、八雲が発祥のバター飴製造機械など、八雲地域の旧石器時代から現代に至るまでの歴史資料が展示されている。



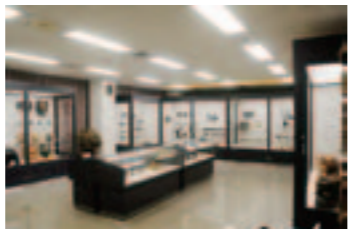
●八雲片栗粉の等級荷札（花・雪・月）



●畜産・酪農関係資料



●旧尾張藩士資料



●木彫り熊北海道の発祥地

北海道第1号の木彫り熊は大正13年に伊藤政雄氏が制作。昭和3年には伊藤氏らを中心に八雲農民美術研究会が結成され、徳川農場で講習会や共同制作を行い制作技術を高めて、全道へと広がった。八雲発祥の木彫り熊を顕彰する記念碑は、公民館敷地内の徳川義親公の胸像に隣接して建立されている。木彫り熊や関連資料は、八雲木彫り熊資料館に展示され、公民館では木彫り熊講座も行われている。



●北海道最古のレンガサイロ

北海道における近代酪農発祥の地の一つである八雲町内に残る北海道最古の塔型レンガサイロ。軒高9.5m、大正10年の建設。緑の牧場風景の中によく映える赤レンガを積み上げて建造された堅牢なサイロは、今は倉庫として使われている。

1919（大正8）年	八雲町制施行	1972（昭和47）年	広域農道ミルクロード起工
1920（大正9）年	八雲電気（株）砂蘭部川に発電所開設	1974（昭和49）年	運輸省指定青少年旅行村完成
1922（大正11）年	八雲道路（現在の国道277号）完成	1975（昭和50）年	町営鉛川温泉（現八雲温泉）落成
1924（大正13）年	北海道煉乳（株）牛乳受け入れ開始	1978（昭和53）年	八雲町百年記念式典。八雲町郷土資料館開館
1924（大正13）年	第1回農村美術工芸品評会開催	1979（昭和54）年	八雲線全線舗装化
1930（昭和5）年	相沼内発電所完成	1982（昭和57）年	アヅビ中間育成始まる
1933（昭和8）年	木彫り熊、日本土産品として帝国工芸会長推奨	1983（昭和58）年	道立水産ふ化場熊石支場完成
1937（昭和12）年	熊石船入洞完成	1987（昭和62）年	熊石歴史記念館開館
1939（昭和14）年	北海道鮭鱒ふ化場渡島支場設置	1991（平成3）年	国道5号八雲バイパス4車線化
1943（昭和18）年	酪農振起20周年記念乳牛感謝の碑建立	1995（平成7）年	第1回あわびの里フェスティバル開催
1947（昭和22）年	八雲陸軍飛行場完成	1998（平成10）年	八雲山車行列、国土庁長官賞受賞
1953（昭和28）年	相沼大火（146戸全焼）	2003（平成15）年	海洋深層水供給施設、総合交流施設開設
1956（昭和31）年	国保組合直営診療所開院。八雲漁港起工式	2005（平成17）年	山越郡八雲町と爾志郡熊石町が新設合併
1957（昭和32）年	農林省から集約酪農地域指定	2006（平成18）年	道立公園噴火湾パノラマパーク開園
1959（昭和34）年	八雲町と落部村合併	2009（平成21）年	北海道縦貫自動車道八雲IC完成
1960（昭和35）年	三漁協合併、熊石漁業協同組合となる	2010（平成22）年	北海道縦貫自動車道落部IC完成
1962（昭和37）年	人口がピークを迎える（1万49人）	2011（平成23）年	八雲町自治基本条例を施行
1964（昭和39）年	熊石町制施行	2012（平成24）年	八雲町消防本部新庁舎完成
1966（昭和41）年	乳牛育成牧場造成工事はじまる	2013（平成25）年	八雲町協働のまちづくり推進プラン策定
1967（昭和42）年	鮎川洞窟遺跡発掘調査、メノウ入り土偶発見	2014（平成26）年1月	八雲小学校新校舎完成
	八雲町、総合経営部門で自治大臣賞受賞		情報交流物産館丘の駅オープン